

アナリスト レポート

緩やかな回復基調のなかで 弱含みの動きが続いている

しがぎん
経済文化センター
(産業・市場調査部)

県内景気天気図



凡例
晴れ 晴れ一部曇り
曇り 曇り一部雨
雨
前月比
上昇・好転 横ばい
下降・悪化

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、金属製品や電気機械(なかでも民生用電気機械)などは上昇したが、化学(なかでも化粧品)や窯業・土石製品、プラスチック製品などが低下したため、前年同月比では2か月ぶりに上昇したものの、前月比では2か月連続で低下した。

需要面では、百貨店・スーパー販売額は全店ベースで5か月ぶりに増加したが、既存店ベースは20か月連続で減少している。他の小売業態では、ドラッグストアの販売額は40か月連続の増加で好調が続く、家電大型専門店が3か月連続で増加、ホームセンターは6か月ぶりに増加、コンビニエンスストア販売額は2か月連続で増加しているため、小売業6業態計売上高は2か月連続で増加している。また、乗用車の新車登録台数は2か月連続で増加、軽乗用車の新車販売台数は3か月連続かつ大幅の増加となっている。民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積はサービス業用で減少したものの、鉱工業用と商業用で増加したため、3業用計では2か月連続で大幅に増加した。トラックの新車登録台数も5か月連続の増加となっている。さらに、新設住宅着工戸数は分譲住宅が2か月ぶりに大幅減少したものの、持家が4か月連続、貸家が2か月ぶりに大幅増加したため、全体では3か月ぶりに大幅増加した。一方、公共工事の請負件数は2か月ぶりに増加したものの、金額は2か月連続の大幅減少となった。

このような中、雇用情勢をみると、新規求人倍率

京滋の景気動向

京都府・滋賀県の景気は、緩やかに拡大している。

個人消費は、緩やかに増加している。設備投資は、一段と増加している。住宅投資は、持ち直している。公共投資は、横ばい圏内の動きとなっている。生産、輸出は、増加基調にある。労働需

は前月比低下したが、3か月連続で2倍を超え、就業地別の有効求人倍率は高水準で横ばいとなった。また、製造業の所定外労働時間指数は2か月連続で増加しているが、常用雇用指数は4か月連続で減少しているため、ひっ迫感が緩和の兆しがみられる。

しがぎん経済文化センターが8月に実施した「県内企業動向調査」によると、自社の業況判断DIは+9で、前回(5月調査)の+14から5ポイント低下するも、5四半期連続でプラス水準にある。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は在庫調整の進展がみられるものの、7月上旬のいわゆる「西日本豪雨」の影響などから内需関連を中心に伸び悩んだため、弱含みの動きがみられる。一方、需要面では個人消費や民間設備投資、住宅投資の一部、公共投資で伸び悩みがみられるものの総じて堅調に推移している。したがって県内景気の現状は、緩やかな回復基調のなかで弱含みの動きが続いている。

今後の動向 県内製造業の生産活動は、9月上旬と下旬に近畿地方に上陸した台風21号と24号の影響による内需関連需要の伸び悩みに加え、米中貿易戦争の影響が一部の外需関連需要でも懸念されるため、全体に弱含みの動きが続くものとみられる。需要面では、景気の先行き不透明感などから、力強さに欠けた状態が続くと考えられる。したがって今後の県内景気については、台風の影響に加え、海外経済の不確実性やそれに伴う景気の下振れ懸念などから、緩やかな回復基調に足踏み感がでてくると考えられる。

給は引き締まっており、雇用者所得も緩やかに増加している。

9月短観における全産業の業況判断D.I.は、前回調査に比べて「良い超」幅が縮小している。【日本銀行京都支店:「管内金融経済概況」(2018年10月11日発表)より】

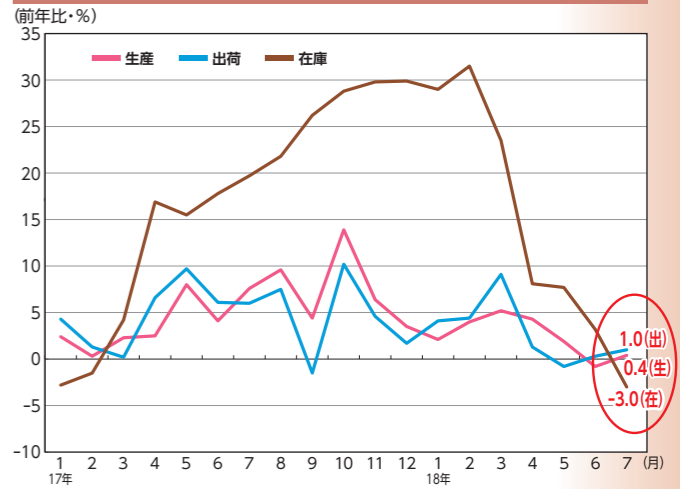
「鉱工業指数」の在庫指数は

17か月ぶりに低下

- ・鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」(2018年7月)は112.4、前年同月比+0.4%で2か月ぶりに上昇。「季節調整済指数」は105.9、前月比-0.7%で2か月連続の低下。季節調整済指数の3か月移動平均値(6月)は107.1、前月比-0.7%で、2か月連続で低下。
- ・業種別季節調整済指数の水準は、「化学」(130.6)や「はん用・生産用・業務用機械」(126.5)、「食料品」(117.4)、「パルプ・紙・紙加工品」(116.3)などは高水準。「窯業・土石製品」(60.3)や「金属製品」(88.0)、「鉄鋼」(93.8)などは低水準。
- ・前月との比較では、「金属製品」(前月比+3.5%)や「電気機械」(同+3.4%、なかでも民生用電気機械)などは上昇。「化学」(同-7.7%、なかでも化粧品)や「窯業・土石製品」(同-3.5%)、「プラスチック製品」(同-3.4%)などは低下。
- ・「出荷指数」と「在庫指数(製品在庫)」は、出荷は2か月連続で上昇(原指数113.1、前年同月比+1.0%)、在庫は17か月ぶりに低下

(同138.7、同-3.0%)。業種別の在庫指数は「輸送機械」(同-37.0%)や「電気機械」(同-20.1%)、「食料品」(同-18.7%)などで大幅低下。

鉱工業生産・出荷・在庫指数の推移(滋賀県、原指数、2010年=100)



「小売業6業態計売上高」は

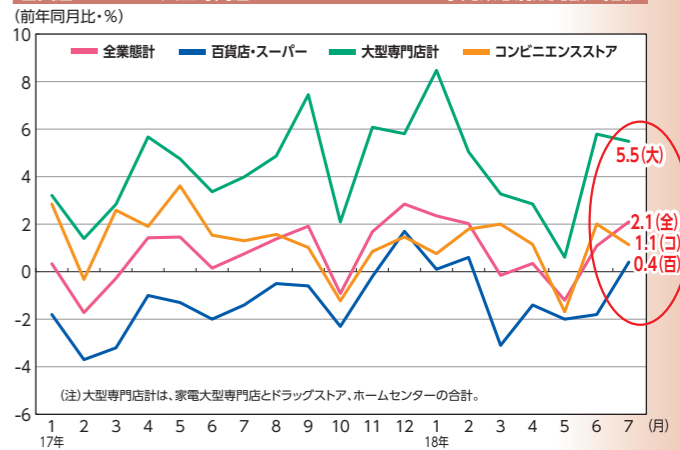
2か月連続で増加

- ・「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は97店舗)」(7月)は、21,787百万円、前年同月比+0.4%、5か月ぶりに増加。品目別では、ウエイトの高い食料品は2か月ぶりに増加(同+2.9%)、家電機器は2か月ぶりに増加(同+4.3%)、家庭用品は15か月ぶりに増加(同+1.0%)。一方、衣料品は25か月連続で減少(同-4.4%)、身の回り品は7か月連続で減少(同-1.2%)。「既存店ベース(=店舗調整後)」では、食料品の増加幅が全店ベースに比べ小さいため(同+1.6%)、全体では20か月連続で減少(同-0.6%)。
- ・「ドラッグストア」(全店ベース=店舗調整前、7月、190店舗)は、6,157百万円、前年同月比+10.3%で、40か月連続で増加。「家電大型専門店」(同41店舗)は、4,858百万円、同+2.5%で、3か月連続で増加。「ホームセンター」(同60店舗)は、3,405百万円、同+1.6%で、6か月ぶりに増加。「コンビニエンスストア販売額」(同564店舗)は、10,636百万円、同+1.1%で、2か月連続で増加。
- ・小売業6業態計売上高(7月)は、46,843百万円、前年同月比+

2.1%で、2か月連続で増加。

・「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」(8月)は、「普通乗用車(3ナンバー車)」は2か月連続で増加(1,386台、前年同月比+4.8%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」も2か月連続で増加(1,194台、同+0.3%)。2車種合計は2か月連続で増加(2,580台、同+2.7%)。「軽乗用車」は、3か月連続かつ大幅の増加(1,666台、同+14.2%)。

百貨店・スーパー、大型専門店、コンビニエンスストアの小売業態別販売額の推移



「新設住宅着工戸数」は

3か月ぶりに大幅増加

- ・「新設住宅着工戸数」(8月)は765戸、前年同月比+13.7%で、3か月ぶりに大幅増加。
- ・利用関係別では、「持家」は365戸、同+7.7%で、4か月連続で増加(大津市67戸など)、「貸家」は284戸、同+46.4%で、2か月ぶりに大幅増加(大津市97戸、草津市49戸など)。「給与住宅」は1戸(近江八幡市)。
- ・「分譲住宅」は115戸、同-17.9%で、2か月ぶりに大幅減少(大津市64戸など)。「一戸建て」は2か月連続で増加(103戸、前年差+26戸)、「分譲マンション」は2か月ぶりに大幅減少(12戸、同-51戸)。

新設住宅着工戸数の推移(利用関係別)

